

星空の下で音楽を

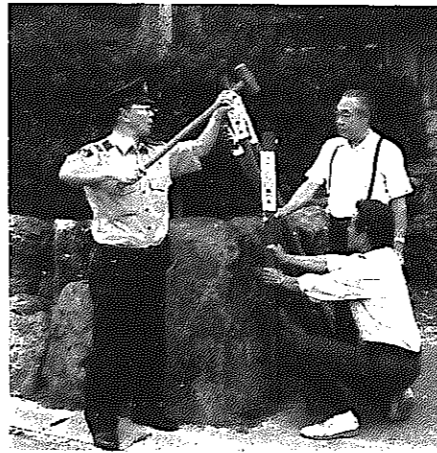


秋の夜長、屋外でクラシック音楽を楽しんでもらおうと茨曾根地区公民館が企画した星空コンサート「茨曾根音楽浴」が十月四日、同地区農村公園で行われました。コンサートには、榎本正一さん(フルート・オカリナ)、田中多恵さん(バイオリン・ビオラ)、高木明子さん(ピアノ)が出演し、「青き美しくドナウ」、「里の秋」など全十五曲を演奏。会場内にはワインやジュースのサービスもあり、訪れた百人余りの人たちは「野外での音楽はまた格別」と、飲み物を片手に、ゆったりと音楽を楽しんでいました。

星空コンサート「茨曾根音楽浴」

地域力で子供たちを守ろう

白根警察署こども110番の家設置



児童・生徒など子供を狙った犯罪が増える中、白根警察署では地域の防犯のために、小林地区に「こども110番の家」を指定。通り魔的犯罪などの未然防止に努めています。

今回指定されたのは小林地区の約四十件。家先には「こども110番の家」と書かれた看板が立てられました。知らない人につきまといやわらわらなど、子供が危険を感じたときにはいつでも飛び込めるようになっています。白根警察署の竹内交通安全課長は「地域の皆さんの協力でこのような体制ができた。今回はモデル地区として小林地区を指定したが、状況を見ながら管内に広げていきたい」と語っていました。

介護のこつを学んで

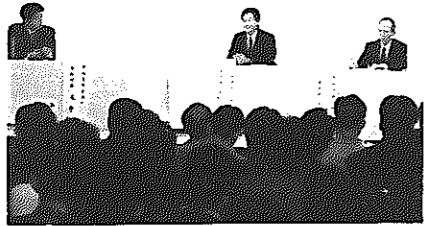
家庭介護教室



十月五日、特別養護老人ホームしなの園で家庭介護教室が開かれ、市内外から五十五人が参加しました。前半は施設見学に続いて、病気への対応や食事などについての講義、後半は基本的な介護の実習が行われました。介護実習では、デイサービスセンター職員指導で、シート交換や食事の介助、着替えなどを体験。介護する人とされる人を交互に体験し「見るとやるでは大違い。介護されるのも楽じゃないねえ」と思わず苦笑いする人も。教室では、「介護は長期戦。いい意味での手抜きが必要になってくる。介護者もときには気分転換して」とアドバイスしていました。

電車の良さを見直そう

電鉄廃止問題シンポジウム



九月二十六日、黒崎町保健センターで「これからの都市交通と電鉄廃止問題について考えるシンポジウム」が行われました。白根市など新潟交通電車線沿線の六市町村の商工会などで構成する中の「川沿線経済振興協議会(山崎稔会長)が電車線の存続問題に関心をもち、沿線市町村の住民ら二百人が参加しました。長岡技術科学大学の佐野可志

助教授ら三人のパネリストが次々に、「地球温暖化などの環境問題や増大する高齢者の交通対策、新潟市を取り巻く都市交通の在り方を考える絶好の機会です」と問題提起や提言を行っていました。また、「車の普及により道路整備が間に合わない状況下で、定時運行と環境に優しい電車は世界的にも見直されており、特にライトレール(路面電車)が注目されています」と述べていました。参加者からも質問、提言が相次ぎ、活発なシンポジウムとなりました。

おもしろ科学実験に挑戦



子供たちに科学の面白さを知ってもらおうと十月五日、カル

理科センター「97科学の祭典

チャーターセンターで白根地区理科教育センター主催の97科学の祭典が行われ、にぎわいました。電子レンジを使った押し花作りやぐにやくにやした物体スライム作りなど、楽しいコーナーがいっぱいで、どこも列ができるほどの人気。子供たちは、目を輝かせながら実験に挑戦していました。この日は、夏休みに子供たちが作った科学作品の展示会も行われ、ずらりと並んだ昆虫や植物の標本、工作などが訪れた人たちの目を楽しませていました。

夢いっぱいアイデア貯金箱



アイデア貯金箱コンクール作品展が十月一日から十五日までの

白根郵便局貯金箱コンクール間、白根郵便局で開催されました。これは、白根郵便局が配達区域の市内九つの小学校と味方小学校に呼び掛けて毎年開催しているもの。子供たちが夏休み中に作った貯金箱百五十点が展示されました。空き缶を利用したものなど工夫を凝らした作品がいっぱい。地区審査入賞者は次のとおりです。
【郵便局長賞】藤原夢子(大鷲小二年) 智野泰隆(白井小一年) 高橋笑理(白根小一年) 薄田美咲(白根小二年) 【メルバルク賞】相沢孝文(白根小三年) ※敬称略

日本との違いを肌で感じて...

農村婦人海外農業研修に参加 関根和子さん(清水)

(社)国際農業者交流協会が主催する農村婦人海外農業研修に、市の助成を受けて市内茨曾根の関根和子さんが参加。全国から集まった十人の農村女性と共に、九月一日から十一日間ヨーロッパへ渡り、見聞を広めてきました。訪問先はオランダ、ドイツ、フランスの三カ国。現地農家の視察や農家へのファームステイ、農業講習など、朝七時から夜の九時までみっちり研修、寝るのは夜の十二時過ぎというハードなスケジュールをこなしてきました。ちょっと強行軍だったなあとと思うけど、でもいろんな人と会えたためにな



ドイツハッペンハイムのステイ先農家で、右から2人目が関根さん。

「日本と外国との違いを肌で感じましたよ」とこやかに振り返ります。日本と外国との違いを肌で感じてきた関根さん。「向こうの農業者を見てみると、無駄な仕事はやらさず、余暇などを上手に使っていると感じました。私も自分の時間を持つよう見習いたいと思います」と話します。また「日本では大きくて形の良い作物が売れますよ。トマトにしても赤くて大きくておいしそうなのが、でも向こうの生産者は外見にこだわったりしません。形が悪くてもきちんと品質表示マークを付けて売っている。それに対して、消費者も内面にこだわって理解があります。売ってしまえば終わりという日本は心が貧しいのかもしれないね」と言います。研修に参加したきっかけについて「子育ても一段落。一度外に出ていろんな人と出会い、農業をやる自分自身を見つめ直してみたかったんです」という関根さん。研修を終え、「いろんな農村女性がいるんだな」と思いました。視野が広がりましたと笑います。「ぜひ他の農村女性から思い切った参加してもらいたいですね」と語っていました。